

すなお

令和2年11月号



おやのことば

何でも親という理

戴くなら、

いつも同じ晴天と
諭し置こう。

明治二八年十月二十四日

以前本部の祭典を参拝された他宗教の方の投稿を見て驚いたことを思い出しました。その内容の概略は「天理教の祭儀の最たる儀式であるはずのおつとめ中の私語の多いこと。何故なのか不思議でならない、」というものでした。そう言われてみれば、キリスト教の儀式などをテレビなどで見れば真剣に儀式に向かっています。

(次ページへ)



すなお (立教183年11月号)

通 巻 発行所

No.724
天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
0898-23-5004

FAX 0898-23-5123
発行日 2020.11.16
二宮英治

責任者

「ありがとう」と「ごめんね」

With you vol. 45より転載

・・・皆さんはご自分のご主人、あるいは奥さんに「ありがとう」や「ごめんね」と言っていますか？居心地の良い家庭を手に入れる方法はこの二つの言葉を意識して使うことが大切で、夫婦のコミュニケーションを図る究極の言葉だそうです。確かに言葉の頭に「ありがとう」や「ごめんね」をつけて話すと、自然と穏やかな言葉が続きます。例えばご主人に手伝ってほしいことがある時、奥さんから「ごめんね、これ手伝ってくれる？」と言われたら、ご主人は「仕方ないなあ」と思いながらも手伝ってくれるでしょう。「ありがとう、おかげで助かったわ」とお礼を言えば、頼むほうも頼まれたほうも気持ちよく動けるのです。反対に「もう、手伝ってよ」と「分かってる。今しようと思ってたんや」とご主人はいやいや手伝うか、あるいは手伝ってくれないかもしれません。これでは、次に続く言葉はお互いが喧嘩ごしになってしまうでしょう。

(みちのだい-195号 母親講座)

教会ニュース

本部月次祭参拝について

9月月次祭より境内地にパイプ椅子を設置して参拝がさせていただけるようになっています。もちろん密になってはいけないので前後・左右の間隔を開けてではありますが、以前のように境内地に入ることさえ出来ないという状況ではありません。参拝に行かせていただこうと思われる方は、遠慮無くお帰りください。祭典終了後は昇殿することも出来ます。

大教会においては今月もおつとめ奉仕者のみでの参拝になっていますので、よろしくお願いします。

みちのとも手記掲載

本部道友社発行の「みちのとも」11月号気づきを生かすの手記特集が組まれ、この中に[天気の不足を言わない”心定め”から]と題した会長の手記が掲載されました。長年言い続けていることではありますが、この機会に再度仕切り直し今日の与えであるお天気をしっかり喜んでつとめてください。そして、不思議を味わっていただきたいと思います。この冊子は教会にも置いてありますし、本部道友社の販売所でも販売されています。

私語をしている人などいません。それに比べて例え陽気ぐらしを目標にしていると言つても、世界の平和を祈り身上、事情の方の取りを真剣に願うなら私語は無くて当然でしょう。いつの頃からこうした姿になつたのでしょうか？また、それが気にならなくなつてしまつたのでしょうか？

コロナの影響で様々大変な状況になつていることがあります、今回の参拝の姿を通して本来の月次祭のつとめ方を教えられたように思います。コロナだから距離を保ち、マスクをして私語が出来ない状況でした。でも今後今までのようには参拝出来るようになつたとしても真剣なおつとめの姿を忘れてはならないと思います。

中には「そんな堅苦しいこと」という人もいるかもしれません。しかし、命の切り替えをするというおつとめであり、地球の反対側からでもこのおつとめを目指して帰つて来られる方もいると考えれば、それくらいの時間真剣につとめることは何も大変なことではありません。それ以外の時間は楽しく、会話も笑いもすれば良いと思います。コロナだからこそ分からせていただけた姿だと深く思索をしています。

答えをいただけるつとめ方、通り方をして信仰の喜びを感じさせていただきましょう。



式を終えて

椿 信代

11月1日、大阪で結婚式を挙げさせていただきました。当日はとてもよいお日和に恵まれ、喜びいっぱいの心で無事につとめ終えることができました。

日取りを決めた時はまさか今年がこんな大変なことになるとは思いもよらず、一時は実施できないかもという状況になりましたが、様々なところで神様に守っていただき結果的にはいいタイミングで素晴らしい一日を迎えることができました。

今回の式にあたり、瀬戸路につながる皆様からもお祝いとおめでとうの言葉をいただきありがとうございました。兄弟たちとも久しぶりに会い手紙で思いを伝えあった時に改めて、これまで多くの人達に見守られながら育ち、信仰があつたからこそ今の私がいるのだと感じました。

この先の人生楽なことばかりではありませんが、あの日の喜びを忘れることなく、いつも神様の方を向いて夫婦の心を揃えて通りたいと思います。